

★学校評価の概要 ～まとめと次年度へ向けて～

(1) 学校教育全体の状況

- ・ コロナ禍が明け、生徒の学ぶ機会を保障するため、断固たる決意を持って教育活動に努めてきました。学校は「楽しい」「やや楽しい」と回答した生徒が93.5%と、昨年度を大きく上回る結果となりました。また、学校行事や生徒会活動の充実度に対して保護者の方々からも高い評価をいただいていますので、学校の取り組みに対して一定の支持を得ていると考えています。今後も働き方改革とのバランスを取りながら、マイナスの評価や個々の意見に目を向け、要望について、改善できるところは応えていきたいと思えます。
- ・ 授業が「よくわかる」と回答した生徒の割合が、四年間で一番低くなっています。また、「チャイム前に席に着く」「先生の方を見て話を聞く」「正しい姿勢で書く」「まじめに授業に参加する」などの項目も評価が下がっています。学習マナーについて、指導を見直し、全校体制で徹底を図っていききたいと思えます。そして、話し合い活動やICT機器を効果的に活用しながら、生徒にアウトプットさせる授業を展開することで、「わかる・できる・つかえる」を実感させていききたいと思えます。
- ・ 図書館の活用については数年来の懸案です。朝読書に進んで取り組む生徒も減少傾向にあります。図書館司書とも連携をしつつ、読書活動について考えていききたいと思えます。

(2) 学校運営の状況

- ・ 生徒の安全確保について、保護者の方々の「そう思う」の回答は昨年度を大きく上回っていますが、「やや思う」の回答も合わせてみれば、9割を超えているものの、昨年度に比べて評価が下がっています。いじめや不登校対策、大規模な災害時における対応、感染症対策など、安心・安全に関する意識が非常に高まり、要望も年々増加しています。組織的ないじめ・不登校対応、不審者対応、避難訓練などに、生徒や保護者の方々、地域の方々の願いを反映させて取り組み、情勢を注視しながら感染症対策を進めることで、今後も一層、生徒が安心して通える学校づくりに努めていききたいと思えます。
- ・ 公開授業、学校だより、ホームページ等で、学校の様子を伝えていますが、保護者の方々の評価では、それに対する「そう思う」「やや思う」の回答の割合が昨年度に比べて低下しています。また、地域の方々の評価においても「学校のことがまったくわからない」という回答が多くありました。開かれた学校として、地域や保護者の方々にしっかりと伝わる広報の仕方を考えていききたいと思えます。

(3) 教育活動の状況

- ・ あいさつ、マナーを守るといった基本的な生活習慣について、「そう思う」と回答した生徒の割合が年々低下しています。ただし、「やや思う」の回答も合わせてみれば高い評価を維持し、保護者の方々や地域の方々からも、項目によっては昨年度に比べて良い評価を得ることができています。生活習慣が乱れていかないよう、全校体制で継続して指導する必要があります。今後も、落ち着いて学校生活を送り、集中して授業に取り組める環境づくりに努めていききたいと思えます。

- 小規模校の特性を生かし、生徒一人一人に寄り添ったきめ細かな指導を心がけてきました。学校の生徒理解や相談活動に対して、保護者の方々の評価が昨年度に比べてかなり良くなっています。生徒の言動を通して、教師の熱意が伝わっているからだと考えます。生徒との信頼関係を築くことで、保護者の方々、地域の方々の信頼度も増していきます。今後も生徒一人一人を大切に、信頼度をより一層高めていきたいと思えます。

(4) その他

- 今年度、地域行事におけるボランティア活動の機会が増えたため、ボランティアに対する意識が高まり、前向きに参加する生徒も増えました。地域との関わりが強いことが北方中学校の特徴です。学校運営協議会やPTA活動などを通して、学校理解の機会を増やすとともに、広報活動にも努めていきたいと思えます。
- コロナ禍は明けましたが、「機会があれば学校にボランティアとして出かけた」という地域の方は3割程度で、コロナ禍とそれほど変わっていない状況にあります。今後、新たな地域人材の確保に向けて積極的に働きかけていくことが必要となってきました。